

記者発表資料

宮崎県内『事故危険区間』43箇所を選定 ～事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）～

宮崎河川国道事務所と延岡河川国道事務所では、政策目標評価型事業「成果を上げるマネジメント」の導入に伴い、事業の透明性・効率性を一層高めるため、「国道10号・220号 安全性向上検討委員会(委員長：宮崎大学 出口近士准教授)」を去る11月24日・12月17日に開催し、県内の国道10号・220号において事故・歩道データや地域の皆さまのご意見を基に、特に事故の危険性が高く、事故対策が望まれる区間を「事故危険区間」として選定しました。

今後は、事故危険区間について、地元住民、関係機関等と合同で現地点検や注意看板等を設置し、地元住民、ドライバーに対して注意喚起を促すとともに、交通事故の発生状況や歩行者等の利用状況を調査し、効果の高い対策を検討・実施して行きます。

◆事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）とは…

宮崎県内では、死傷事故の29%が国道で発生し、うち61%が国道10号、220号で起こっています。

このような危険な箇所を地域の方と一緒に「事故危険区間」として選定し、道路利用者にも交通事故が起こりやすい危険な箇所との認識を持って頂きながら、集中的・重点的に悲惨な交通事故を撲滅するため、「事故ゼロプラン」として全国的に展開しているものです。

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局

宮崎河川国道事務所

技術副所長 横山 陽一 (よこやま よういち)

交通対策課長 松元 勝美 (まつもと かつみ)

TEL 0985-24-8221 (代表)

延岡河川国道事務所

技術副所長 川北 一明 (かわきた かずあき)

道路管理課長 北平 京治 (きたひら きょうじ)

TEL 0982-31-1155 (代表)

国土交通省 宮崎河川国道事務所・延岡河川国道事務所管内の 事故危険区間の作成について

1. 事故危険区間の作成

(1) 目的

宮崎県内の国土交通省が管理する国道10号、220号における事故危険区間を明らかにし、今後の事業実施にあたって、県民や道路利用者との共通認識を図るための資料とする事を目的とします。

(2) 事故危険区間の作成

- ① 死傷事故データから作成
死傷事故件数・死傷事故率が高い区間、死亡・重大事故が発生している箇所を抽出しています。
- ② 歩道の整備状況データから作成
歩道幅員が狭く、通学路として指定されている区間、歩行者事故が発生している箇所を抽出しています。
- ③ 地域の皆さまのご意見から作成
地方自治体や警察署、小学校、交通事業者、一般ドライバーの皆さまからの要望、意見を参考に抽出しています。
- ④ 上記①～③において抽出された事故危険区間リストから、特に事故の危険性が高く、事故対策が望まれる区間を「事故危険区間」として選定しています。

◆ 事故危険区間の作成にあたっては、「国道10号・220号 安全性向上検討委員会」(構成メンバーは下記、名簿参照)において選定。

2. 事故危険区間の活用方法

それぞれの事故危険区間毎に交通事故の発生状況や自転車・歩行者の利用状況を調査し、効果の高い対策を検討していきます。

3. 事故危険区間の対策進捗状況報告

事故危険区間は、対策実施状況のほか、最新の事故データ等を用いて適宜区間の見直しを行い、今後も公表していきます。

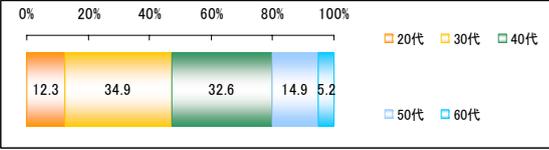
4. 事故危険区間の選定結果

宮崎河川国道事務所及び延岡河川国道事務所のホームページで公表します。

◆ 国道10・220号 安全性向上検討委員会名簿

	所 属	役 職	氏 名
委 員 長	宮崎大学工学部	准 教 授	出 口 近 士
委 員	宮崎公立大学人文学部	教 授	辻 利 則
委 員	宮崎県警察本部	交 通 企 画 課 長	宮 田 起 夫
委 員	宮崎県警察本部	交 通 規 制 課 長	杉 田 定 光
オブザーバー	宮崎県県土整備部	道 路 保 全 課 長	満 留 康 裕
事 務 局	国土交通省 宮崎河川国道事務所 延岡河川国道事務所		

地域からの意見の聴取方法

項目	意見聴取の対象	聴取結果	
ヒアリング調査	沿線自治体 (6市5町)	宮崎河川管内: 宮崎市役所、日南市役所、串間市役所、 都城市役所、都農町役場、川南町役場、 高鍋町役場、新富町役場 延岡河川管内: 延岡市役所、日向市役所、門川町役場	回答市町数: 6市4町 有効回答地点数: 89地点
	警察署 (9警察署) ※交通安全協会の意見含む	宮崎河川管内: 宮崎北警察署、宮崎南警察署、 日南警察署、串間警察署、都城警察署、 高岡警察署、高鍋警察署 延岡河川管内: 延岡警察署、日向警察署	回答所轄数: 9所轄署 有効回答地点数: 76地点
アンケート調査	交通事業者 (4社)	社団法人 宮崎県バス協会の協会員 (バスドライバー) 社団法人 宮崎県タクシー協会の協会員 (タクシードライバー) 社団法人 宮崎県トラック協会の協会員 (トラックドライバー) 社団法人 日本自動車連盟 宮崎支部の支部員 (ドライバー)	有効回答者数: 37人 有効回答地点数: 166地点
	小学校	国道10号・220号の沿線市町の小学校33校	回答小学校数: 16校 有効回答地点数: 31地点
	一般ドライバー (Webアンケート調査)	国道10号・220号の沿線市町の居住者 1,300人 <div style="text-align: center;">  <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>20代 30代 40代 50代 60代</p> </div>	有効回答者数: 391人 有効回答地点数: 530地点
意見聴取内容	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の発生が考えられる、特に危険な箇所と危険な事項 ・歩道整備が必要とされる箇所と整備が必要な理由 		

事故危険区間の選定方法

【STEP1】
 事故・歩道データの分析、地域の声の把握

【STEP2】
事故危険区間リストの抽出【181区間】

(車両事故対策) 事故対策	(歩行者事故対策) 歩道整備
A. 事故が多発 ・死傷事故率が高い ・死傷事故件数が多い	D. 歩道の整備状況 ・両側の歩道幅員が2m未満 ・通学路指定あり ・通学者 (小中高) あり ・歩行者事故が発生 ・連続する歩道が必要
B. 重大事故が発生 ・事故危険箇所 ・死亡、重大事故が発生	E. 地域からの意見 ・地域の指摘する箇所
C. 地域からの意見 ・地域の指摘する箇所 ・公安委員会からの指摘があった箇所 ・道路管理者の点検による対策必要箇所	

【STEP3】
 事故危険区間の選定【43区間】

【選定の考え方】
 ①地域の意見から、事故対策が強く望まれる区間
 ②データによる事故多発区間

事故危険区間の事例

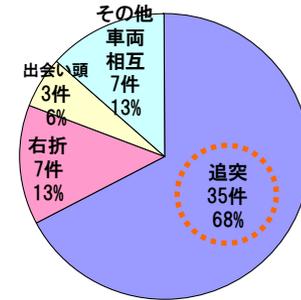
国道10号 昭和町交差点

区間概要

路線名	国道10号
区間名	昭和町交差点
住所	延岡市昭和町
日交通量	41,882台/日 (H17センサス)



事故発生状況【H17～H20:52件】



【事故類型別死傷事故件数】



【昼夜別死傷事故件数】

出典:交通事故統計データ(H17～20)

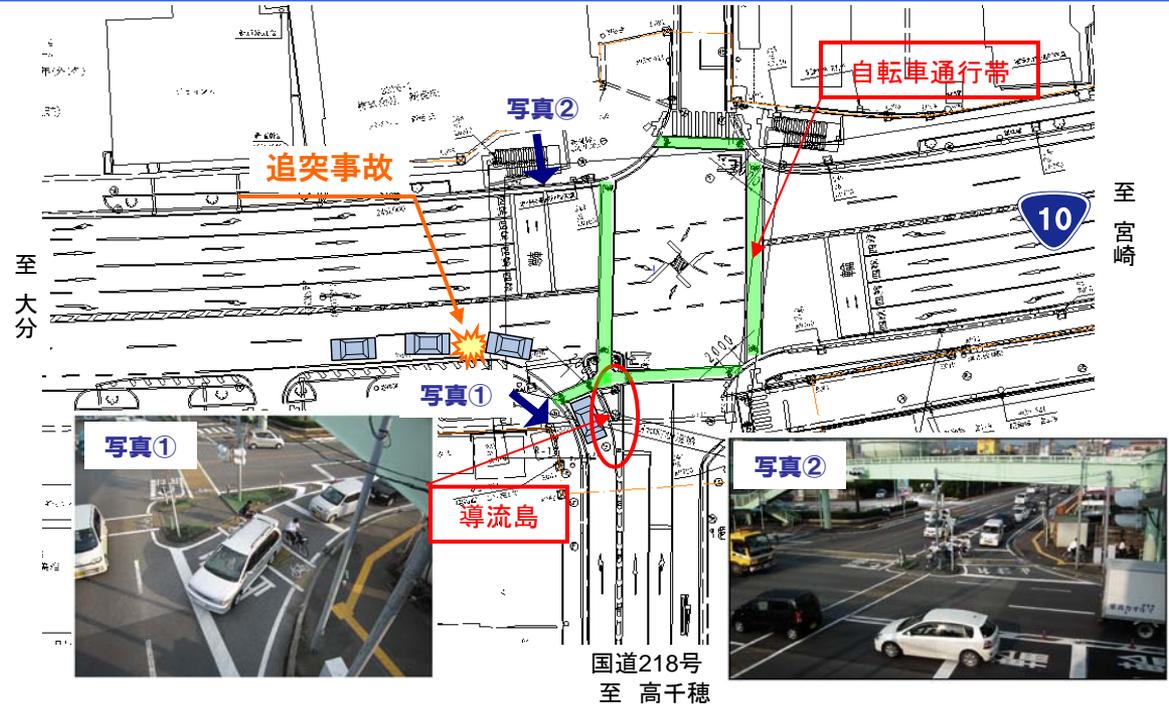
現状の分析

【地域の状況】

- 五ヶ瀬川左岸側に位置する国道218号との交差点で、通学・通勤等での歩道利用者も多い交差点
- 国道218号から国道10号への流入車線には、導流島と左折導流路(左左フリー)がある平面交差

【事故の要因分析】

- 左折導流路及び国道10号合流地点にて前方不注意による追突事故が発生
⇒追突事故対策が必要
- 左折導流路の自転車横断帯にて、自転車と左折車両の交錯による人対車両事故の危険性がある。
⇒人対車両の交錯防止対策が必要



事故危険区間の事例(事業中箇所)

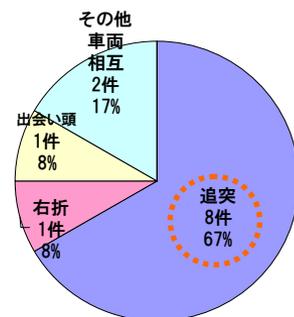
国道10号 家床交差点

区間概要

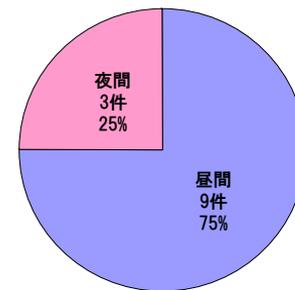
路線名	国道10号
区間名	家床交差点
住所	高鍋町大字持田
日交通量	25,374台/日 (H17センサス)



事故発生状況【H17~H20:12件】



【事故類型別死傷事故件数】



【昼夜別死傷事故件数】

出典:交通事故統計データ(H17~20)

現状の分析

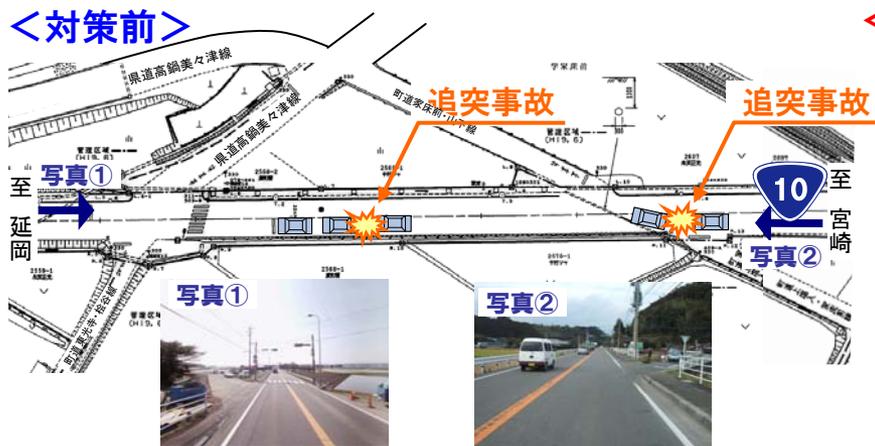
【地域の状況】

● 県道高鍋美々津線と町道の交差点が連続する区間で、交差点前後は直線区間となっており、両交差点とも右折レーンは未設置

【事故の要因分析】

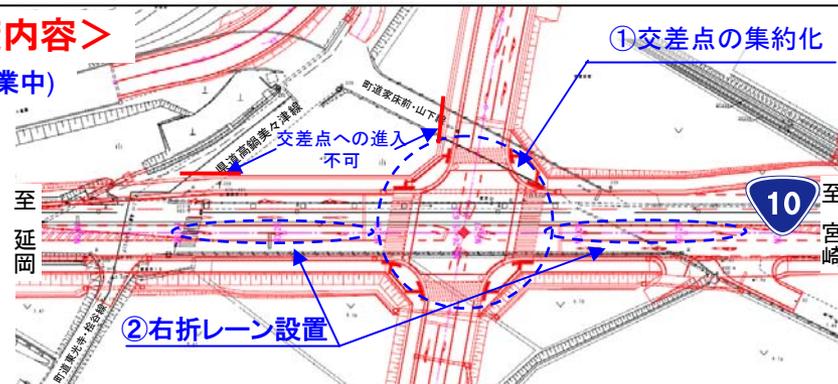
● 連続する交差点において、後続車の前方不注意による追突事故が発生⇒**交差点の集約化、右折時事故対策が必要**

<対策前>



<対策内容>

(事業中)



- ① 追突事故の要因と考えられる「連続する交差点」から、シンプルな交差点に集約することにより、追突事故の大幅な削減が期待される。
- ② 県道への流入部には右折レーンを設置し、後続車への影響を軽減。

事故危険区間の事例

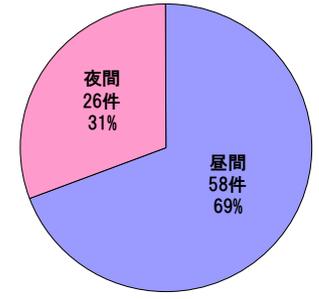
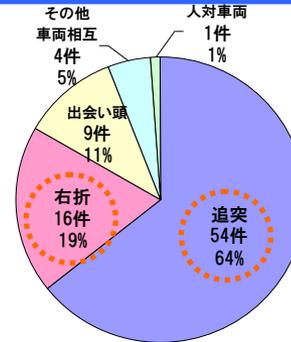
国道10号 南花ヶ島交差点

区間概要

路線名	国道10号
区間名	南花ヶ島交差点
住所	宮崎市南花ヶ島町
日交通量	34,860台/日 (H17センサス)



事故発生状況【H17～H20:84件】



出典:交通事故統計データ(H17～20)

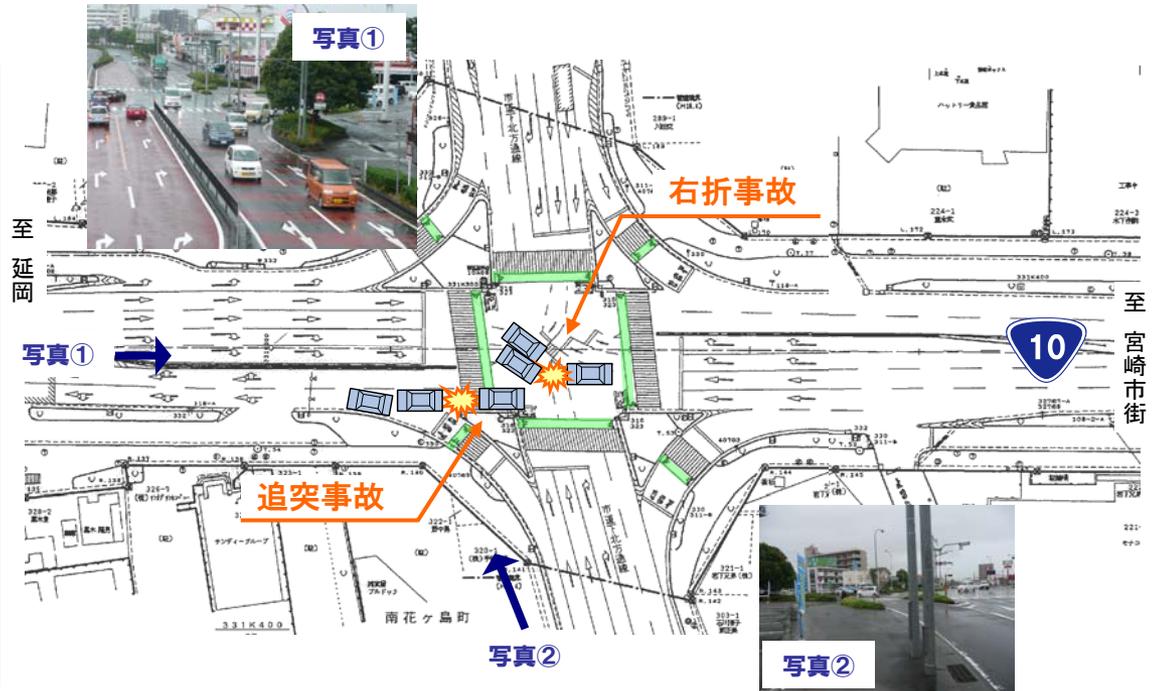
現状の分析

【地域の状況】

- 宮崎北バイパスと4車線の幹線道路が交差する交差点で、市街地と郊外の境界付近に位置する。
- 各流入部には導流島と左折導流路(左折フリー)がある平面交差

【事故の要因分析】

- 左折車の無理な本線合流により、本線合流部付近で追突事故が発生
⇒左折合流に起因した追突事故対策が必要
- 右折レーンが2車線あり、内側の右折車は、外側の右折車により対向直進車が見にくい
ため、対向直進車を確認しづらく右折車対向直進車の事故が発生
⇒右折時事故対策が必要



事故危険区間の事例

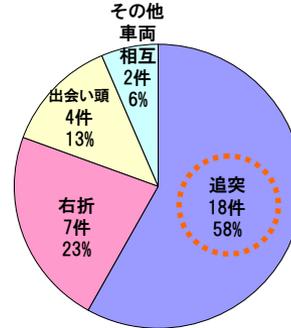
国道10号 都城駅入口交差点

区間概要

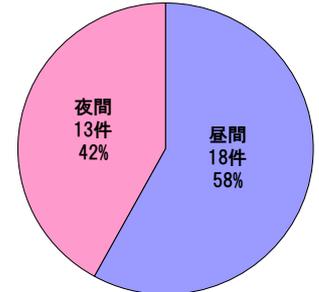
路線名	国道10号
区間名	都城駅入口交差点
住所	都城市平江町
日交通量	36,304台/日 (H17センサス)



事故発生状況【H17～H20:31件】



【事故類型別死傷事故件数】



【昼夜別死傷事故件数】

出典:交通事故統計データ(H17～20)

現状の分析

【地域の状況】

- 都城市街地に位置し、沿道には商業施設、付近には都城駅が立地
- 鹿児島から宮崎方面への上り線において、都城駅入口交差点を挟み直進車線が2車線から1車線へ減少する平面交差

【事故の要因分析】

- 直進車線の減少により、直進車両の無理な車線変更(割り込み)で減速した車両への追突事故が発生
⇒ 直進車両の無理な車線変更に起因した追突事故対策が必要

